opusdei.org

## 聖ホセマリアの生涯 -65

福者アルバロはローマとナポリの間の海岸に研修センターを作るプロジェクトを推進します。その実現のためには聖ホセマリアの姉カルメンの助けがどうしても必要でした。

2024/11/19

## 過去の記事はこちらから

ドン・アルバロの大勢の友人の中に、ローマとナポリの間の海岸に広がるサルト・ディ・フォンディとい

う農園を持っていた貴族がいまし た。彼はそれを売りたいと思ってい ました。そこでドン・アルバロはそ れを買って、土地の大部分を小作農 の人たちに安く売り、残りの土地に メンバーのための研修センターと農 地にし、そこで取れる農産物をロー マのセンターに送ろうと考えまし た。これによってローマ学院の経済 的な困窮は少しでも解決するためで す。戦後の不況の折で、土地が売却 されるには二年かかりましたが、こ れで小作農家は小規模ながらも自分 の土地を持ち、それを機械を使って 耕し、そこで得た収穫から分割払い で支払いをしていきました。また ローマのセンターにも少しづつ野菜 や乳製品などが送られてくるように なりました。

他方、農家を研修センターにするには、女子の管理部が働けるように適切な工事をする必要がありました。 この難しい仕事のため、聖ホセマリ

アは姉カルメンのことを考えまし た。カルメンはオプス・デイのいろ んなセンターを立ち上げる仕事が一 段落ついて、マドリードで弟サンチ アゴと一緒に暮らしていました。そ の姉をイタリアに呼んで再びオプ ス・デイの手伝いを頼むのは、創立 者にはとても心苦しいことでした が、それ以外によい案はないので す。カルメンはすでに今まで何度も ホセマリアからオプス・デイのため の仕事を頼まれました。その度に最 初は「嫌よ」と不機嫌に答えるので すが、すぐに身を粉にして働くので す。どれだけのセンターが彼女のお 陰で家族的な雰囲気の家になったこ とでしょう。最初に断るのは自分が オプス・デイからは独立しているこ とをはっきりさせるため、また褒め 言葉や感謝を避けるためでした。そ こでドン・アルバロが仲介しまし t-,

1952年8月、カルメンはサンチアゴとともにローマに現れました。そして水道も電気もない田舎の農家に来て労働者とともに働いたのです。その御蔭で翌年から1966年までの夏、ローマ学院の生徒たちは暑いローマの町を出て松林に囲まれた海辺ので研修会をすることができたのです。(サルト・ディ・フォンディはやがてリゾート地になり、1966年に研修の家は引き払われました)。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-65/(2025/12/13)